

都市計画たより ■

(社) 建設コンサルタンツ協会 中部支部 都市計画委員会

平成 28 年 2 月発行

平成 27 年度 都市計画検討グループ WG活動に関する合同意見交換会 報告

開催日程等

日 時：平成 27 年 6 月 3 日（火） 17:00~19:00

場 所：名城大学名駅サテライト（MSAT）

参加者：40 名（都市整備 WG：16 名、交通 WG13 名、ランドスケープ WG：11 名）

合同意見交換会の開催に先立ち、会員の皆様に今年度の活動に関するアンケートを実施しました。50 名の方から回答をいただき、様々な要望・意見を把握することができました。

これらの意見を踏まえ、平成 27 年度のワーキング活動（見学会、講習会等）について、検討グループメンバーに集まっていただき、意見交換を行い、以下の方針を決定しました。

都市整備 WG

事前アンケートでは、人口減少社会のまちづくり、超高齢者社会のまちづくり、住民参加とまちづくりについて意見が多く挙がりました。挙げられた意見を踏まえ、「人口減少・超高齢化社会における都市計画・都市整備のあり方」に関する講習会、①旧商店街、歴史的町並みにおける再生事例、②学校等の統廃合、活用事例、③公園、道路等のエリアマネジメントに関する見学会を基本方針とし、企画することで意見をとりまとめました。



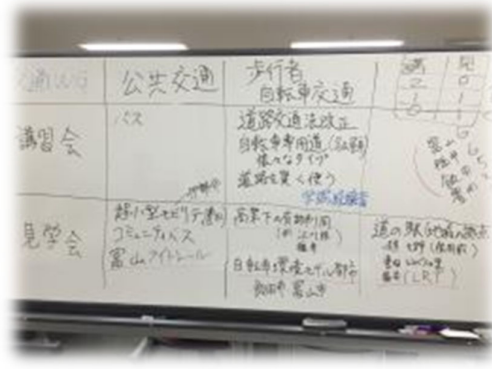
▲都市整備WG討議風景

交通 WG

事前アンケートでは、公共交通、自転車・歩行者交通、交通拠点とまちづくりについて意見が多く挙がりました。挙げられた意見を踏まえ、①自転車関連、②交通拠点とまちづくりに関する講習会、①公共交通、②自転車歩行者交通の高架下の有効利用や自転車環境モデル都市に関する見学会を基本方針とし、企画することで意見を取りまとめました。



▲交通WG討議風景



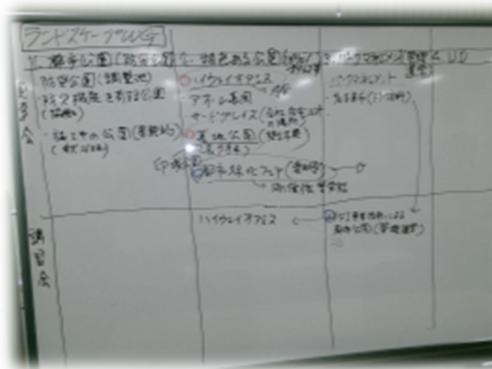
▲討議結果

ランドスケープWG

事前アンケートでは、都市公園（防災公園）、特色ある公園、パークマネジメントについて意見が多く挙がりました。挙げられた意見を踏まえ、刈谷ハイウェイオアシス、「全国都市緑化フェア」への見学会・ヒアリングを基本方針とし、企画することで意見を取りまとめました。



▲ランドスケープWG討議風景



▲討議結果

I. 開催日程等

日 時：平成 27 年 7 月 7 日（火）13:30~18:00

場 所：名城大学 名駅サテライト「MSAT」

参加者：総会参加者 47 名（18 社）

II. 総会の概要

1. 開会 【司会：市橋副委員長】
2. 技術部会長挨拶 【説明：中平部会長】
3. 講演会「住民の健康寿命を延ばすまちづくり」

「住民の健康寿命を延ばすまちづくり」

講師：筑波大学大学院 教授 久野譜也氏

【プロフィール】

- 筑波大学大学院博士課程医学研究科を修了後、東京大学助手、Pennsylvania 大学医学部客員研究員、筑波大学講師、同大学大学院助教授（准教授）を経て、2011 年に筑波大学大学院の教授となり、「運動によるメタボリックシンドロームの予防策の構築」「中高年の筋力トレーニング」等をテーマに研究活動を行っている。
- 2002 年に株式会社つくばウエルネスリサーチを設立し、代表取締役社長を兼任する。
- 内閣官房「環境未来都市推進委員会」や国土交通省「スマートウエルネス住宅等推進調査委員会」等の委員を歴任し、スポーツ医学の立場から都市政策に対しても貢献を図っている。
- 主な著書に、「病気になるしない背筋と腹筋の鍛え方（PHP 研究所）」「サルコペニア肥満解消ダイエット（朝日新聞出版）」「寝たきり老人になりたくないなら大腰筋を鍛えなさい（飛鳥新社）」など多数あり。

4. 平成 27 年度委員の紹介 【説明：小中委員長】
5. 平成 26 年度活動報告と平成 27 年度活動計画（案） 【説明：小中委員長】
6. 平成 27 年度活動方針 【説明：小中委員長】
7. 平成 26 年度決算報告と平成 27 年度予算（案）の説明 【説明：福島副委員長】
8. 意見交換会
9. 閉会

平成 27 年度の活動計画（総括）

都市計画検討グループでは、「技術研鑽」と「技術者相互の交流」を目的に、都市計画に関するさまざまな勉強会、情報の提供、意見交換を行っていきます。

平成 27 年度は、昨年に引き続き、「若手技術者が魅力を感じる活動」をテーマに活動を進め、特に、若手の意見を活動に反映させながら、WG 活動に重点を置き、社会貢献活動を進めていきます。

総会風景

■平成 27 年度活動方針

若手との意見交換会を通じた今年度の各WG（都市計画・交通・ランドスケープ）の活動テーマについて発表がありました。若手層と熟年層では興味・関心の対象が異なることから、より魅力ある活動展開と社会貢献を目指して、講習会・現地見学会・意見交換会などの開催予定についての方向性が示され、意見交換会での議論が深まりました。



■講演会

「住民の健康寿命を延ばすまちづくり」一歩いて暮らすことを基本とする Smart Wellness City—
筑波大学大学院 久野教授

「健康」というキーワードからみた現在の都市構造の分析や、医療に関するデータと都市との関連性など、普段とは異なる視点からのまちづくりについて講演をしていただきました。

久野教授からは、現在進行中の高齢化社会において、健康に暮らし続けるためには、歩くことが重要であり、歩くためには都市構造が密接に関わっているなど、建設コンサルタントが担っている重要な役割に関する指摘もあり、今後の業務に活用できる視点をいろいろと考えることができました。



■意見交換会

グループ毎・参加者全員が一体となった交流が図られ、総会は無事幕を閉じました。



都市整備WG

(1/2)

I. 開催日程等

日時：平成 27 年 10 月 28 日（水） 15：00～17：00

場所：名城大学 名駅サテライト(MSAT) 多目的室

テーマ：演題 歴史的視点から見た集約型都市構造とは？

講師 岐阜大学工学部社会基盤工学科地域環境デザイン研究室
准教授 出村 嘉史 先生

参加者：44 名（17 社）

II. 活動概要（講演会要旨）

- ・ 歴史から学ぶということは、過去に実際に起ったことの中から現在にも使える方法を見つけ出して適用すること、では全くない。
 - ・ 歴史的「事実」を確認するための手続きについて。
 - ・ 集約型都市の伝統
 - 形態論
 - ◇ 田園都市モデル
 - ◇ 都市・地域計画モデル → 集約型都市構造を説く。
 - 形成論
 - ◇ タウンスケープ派
 - ◇ 一定の説得力を持つ Jacobite モデル → 地面に足をつけた視点（景観論）
- ほぼ以下の点が、目標とされてきた。
これらがほぼ現在の世界の都市に対する理想的な見方とされている。
- ・ Mixed-use neighbourhoods, 均等な職, サービス, 生活機能のできる限りの獲得。
 - ・ 公共交通や他のサービスを活性化させる十分な密度の獲得, だいたい 1 ヘクタールあたり最低でも 30 人。
 - ・ 皆が上質な公共交通へ歩いてまたは自転車で移動できる分散した集中の獲得, そこから高水準の教育や特化したヘルスケアあるいは娯楽へアクセスが可能。
- ・ 市（Market） 仮設的な小屋・装置 → 定一化すれば街になる。
 - ・ いま地方都市の形成史を研究すること
 - 近代に地方中小都市がどのように成り立ってきたのか、実はよく知られていない。
 - 地方都市の形成原理は、大都市のそれと同じ？？
 - 読み解くための視点が必要
 - 視点は、都市の規模・中央からの位置づけの違いに伴い異なる。一律の視点で考えるのは不可。
 - 史的アプローチが有効。



▲出村先生による講演会風景

I. 開催日程等

日時：平成 28 年 1 月 20 日（水） 15:00~17:00

場所：名城大学 名駅サテライト(MSAT) 多目的室

テーマ：演題 歴史的視点から見た集約型都市構造とは？ (part2)

講師 岐阜大学工学部社会基盤工学科地域環境デザイン研究室
准教授 出村 嘉史 先生

参加者：26 名（12 社）

II. 活動概要（講演会要旨）

- 都市計画はその時代の要請において企画立案されるもので、現在の価値観や考え方で当時の都市計画の是非を論ずるのは適切ではない。歴史的視点をもって都市計画を考えるということは、過去に行われた都市計画が目指していたものを知り、都市計画の流れを俯瞰することであり、これからの都市計画を考えるに際して視野を広く持たせるものである。
- イギリスの産業革命後に発生した低賃金労働者の居住環境改善が近代都市計画の始まりであり、ハウードの「ガーデン・シティ」→「ガーデンサバープ」と変遷し、都市近郊にニュータウンを整備することが一般化した。
- 当時より都市の形態論として「集約型都市構造」の概念はあり、集中とネットワークにより都市を構成するものとした。一方、こうした都市の形態より都市の中で営まれる住民の活動こそが重要との指摘がジェーン・ジェイコブス等によりなされた。
- 今日、都市計画の原則は「用途混在（機能複合）」「雇用機会の創出、生活機能の拡充」「公共交通の維持」「文化、医療、交流等の都市機能への車以外でのアクセス確保」といえる。
- 日本の都市は産業の工業化とともに歩んできた歴史を有しており、工場立地や物流の軸となる鉄道敷設が都市の構造に強く影響を与えている。
- 岐阜市の都市形成過程をみても、美濃和紙の運搬用に鉄道が敷設され、これに合わせて市街地開発を行っている。また、岐阜市の特徴は、都市開発の計画や資金の手当ては商人等が行い、建設を官吏が行うという民間主導の都市計画が行われたことである。
- これからの都市計画の課題は都市のコアとなる [MARKET] の再生である。



▲ 出村先生



▲ 講習会風景

交通WG

I. 開催日程等

日時：平成27年11月13日（金） 9:50~17:00

テーマ：①「じばさん三重」

講習会：四日市市における交通環境の取り組みについて
四日市市都市整備部都市計画課
公共交通推進室 副参事・室長 秦 様

②「東海道日永郷土資料館」見学（島田館長による説明）

参加者：14名（7社）

II. 活動概要

① 講習会：四日市市における交通環境の取り組みについて

四日市市では「環境先進都市」として公共交通を中心とした交通環境の実現に向けた各種取り組みを行っている。その中の1つとして、「あすなろう鉄道」に関する過去・現在・未来について講演頂くとともに、問題点や課題について意見交換がなされました。

特に、まちづくりの中の公共交通の位置づけについて、立地適正化計画と公共交通網形成計画は相互に連携して取り組む必要があるなど、交通のみならず「誰もが移動しやすい安全に暮らせるまち」として都市づくり全体についての知見を得ることができました。

② 見学会：東海道日永郷土資料館ほか自由行動

見学会では、実際に「あすなろう鉄道」に乗車し、地域に残る歴史・民俗・文化・街道（東海道・伊勢街道）などに関わるさまざまな資料が時代別、テーマごとに展示されている東海道日永郷土資料館を訪問しました。2周年特別展として「四日市あすなろう鉄道・日永今昔物語」が開催中であり、この内部・八王子線の100年の歴史を学んで楽しめる特別展を見学してきました。また、自由行動ではレンタサイクル等を体験しました。



▲講習会風景



▲あすなろう鉄道



▲東海道日永郷土資料館



▲自転車レーン

今年度は、ランドスケープの学びに寄与する「2つの講習会」を開催しましたので、それぞれ、ご紹介いたします。

【テーマ① 公園における集客力を高める工夫を学ぶ】

I. 開催日程等

○日時：平成 27 年 11 月 10 日（火） 8:50～17:00

○場所・テーマ・講師

<午前の部>

- ・場 所：刈谷ハイウェイオアシス岩ヶ池公園（約 41.4ha）
- ・テーマ：大規模公園における集客力を高める工夫等
- ・講 師：刈谷市 都市整備部 公園緑地課 小椋貴正氏
指定管理者 刈谷ハイウェイオアシス（株）
澤田氏、石川氏

<午後の部>

- ・場 所：刈谷市フローラルガーデンよさみ（約 3.4ha）
- ・テーマ：小規模公園における集客力を高める工夫等
- ・講 師：刈谷市 都市整備部 公園緑地課 小椋貴正氏
指定管理者 コニックス（株）
塚本秀人氏、近藤かおり氏

○参加者：26名（14社）



▲講義の様子



▲講師による現場説明の様子

II. 活動概要

近年、公園においても集客力を高める工夫が求められていることから、入場者数がTDL、USJに次ぐ第3位の「刈谷ハイウェイオアシス」における岩ヶ池公園（約 41.4ha）の取り組みと、規模は 3.4ha 程度と小さいですが、様々な工夫により集客力を高める工夫をしている「フローラルガーデンよさみ」の取り組みから、今後の公園計画・設計及びマネジメントの参考とすることを目的に実施しました。

当日は、前日までの雨がうそのように晴れ渡り、参加者多数のもと、行政・指定管理者それぞれの立場から貴重なお話をいただき、理解を深めました。



▲集合写真（刈谷ハイウェイオアシスにて）

【テーマ② 全国都市緑化あいちフェアの取組みから
“花とみどりを創り出すための知見・ノウハウ”を学ぶ】

I. 開催日程等

○日 時：平成 27 年 12 月 16 日（水） 15：00～16：30

○場所・テーマ・講師

- ・場 所：名城大学名駅サテライト（MSAT）多目的室
- ・テーマ：「全国都市緑化あいちフェアはどこまで造れたか」
- ・講 師：第 32 回全国都市緑化あいちフェア実行委員会 事務局長 大西一夫氏

○参加者：23 名（11 社）

■全国都市緑化あいちフェアの状況

【入場者数】

- メイン会場[モリコロパーク]
：約 73.7 万人(目標 70 万人)
- サテライト会場との合計
：約 300 万人(目標 100 万人)



▲撮影スポットとなった『鏡の中の花畑』
(写真：実行委員会事務局HP)



▲壁面緑化とマンガによる花贈り体験
(写真：実行委員会事務局提供)

II. 活動概要

本講習会は、H27.9.12～H27.11.8 に開催された「全国都市緑化あいちフェア」で事務局を総括された大西一夫様（愛知県建設部全国都市緑化フェア推進監）を講師に招き開催しました。

『近隣競合施設との差別化を図る多種共演型かつ体験型の花展示・演出方法』や、『50 年以上の間、花卉産出額日本一の“あいちの産業力”を活かした植物調達の仕組み』、さらには、『協働をエンジンとする管理運営の仕組み』など、より多くの方に花や緑に触れていただくための“集客のしかけ”や“運営上の工夫”などを、効果検証を含め、わかり易く丁寧に、ご講演頂きました。

普段の業務では、実態に触れることが少ない内容も多く、熱心に講演を聞き入る参加者の皆さんの姿が印象的でした。また、質疑応答では、講師の方も驚くほど多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえ、大変有意義な講習会となりました。



▲講習会の様子